

打瀬中学校の文化祭

見てきた打瀬の教育の成果

平成11年10月30日打瀬中学校

まず、プログラムを見て驚いたのは、住民の参加プログラムが多いこと。絵画、コーラス、二重唱、琴曲など、中学校の文化祭にこれほど住民参加があるのも珍しいでしょう。実際に見て、その印象は更に強く、午後からはほとんどベイタウン文化祭という感じでした。しかもこれらの企画を生徒がほとんど自分たちでやっており、先生と父兄はもっぱら調整係ということでした。住民参加プログラムに音楽関係が多かったのは、2年前のクリスマスコンサートと、メッセで親子三代コーラスをやったときの関連で出演のお願いをしたからでしょう。

驚きの2番目は、他の中学校から、生徒会とPTAの代表の方々が昨年の文化祭の評判を聞いて、見学に来ていたこと。先方の生徒会長に印象を聞くと「すごすぎる。なにかやっていか分からない。」という言葉がすぐに返ってきました。来年の文化祭の準備を始めるにあたり、実にショックを受けたようでした。PTAのお母さん達にもお話を聞きましたが、やはり大変驚いたようでした。この辺は打瀬中学校はすごいようですよ。

3番目は「屋台村」。これは一昨年からはじめた研究発表の方式ですが、体育館で3年生の生徒達が、自分が7月から行ってきた研究の成果を、制限時間内に屋台形式の小さな「ブース」でそれぞれ発表するというものです。ポイントは2つあり、まず、発表を15人程が同時に行ない（つまりブースが15できる）、それが4交代程で全員が発表するという。何人もが同時にブースを出すので、発表のやりかたで観客（1、2年生と発表をしていない3年生、そして大人達）の数に差がでます。プログラムは事前に発表されており、観客はそれぞれ見たいところを選んで見に行き、発表者の息が聞こえるほどの距離で発表を聞き、質問や意見をぶつけます。この方式だと、観客は自分の見たいところへ自分の意志で興味を持ってゆくの、演壇で誰かの優秀作品を全校生徒で静かに「聞かされる」のに比べ

ると、飽きもなく、また私語や騒がしさという中学生特有の無秩序な状態がないそうです。

自分の意志で行動させると外部から統制を加えなくても秩序はできるそうで、実際、子供たちは交代の度に好きなところへまっすぐに行き、発表を楽しみに聞いていました。打瀬小学校の子供達は統制される機会がなく、無秩序でだらしないなどと言う人もいますが、その子供たちが中学に行き、他校からも驚くほどの秩序と、目的意識を持った行動をしているのですから、考えさせられてしまいました。

ポイントの2つ目は、それぞれの発表内容がひとつの教科中心ではなく、2つ以上の教科にまたがったものであること。生徒達は7月から選択制で教科を選んでいるようで、選択した教科の中から2つの教科にまたがるテーマで研究をおこない発表するというものでした。たとえば、ある生徒は、古代の人間と道具の関わりについて、歴史と工学の観点にまたがった研究を



していました。発表の方法や屋台村というユニークな設定の故に、派手なパフォーマンスだけが評価されるような印象でしたが、どっこい中身も相当なものです。

文化祭を見ての印象では、打瀬中学校のレベルは相当なものだということです。打瀬の教育はその派手さからか、学力の面では子供たちは他校に比べて劣るのではないかと危惧があり、実際中学受験などでは決して有名校に多く進学させていません。しかし、学ぶ姿勢という点では小学中学を通じて伸びる素地というものが培われてきています。高校進学後、打瀬中学校の子供たちが各校で高いレベルに伸びているという事を聞きました。大人になって自分のやりたいことがわかっている人は、その意欲故に伸びるものです。好きかどうか分からないものを、若いうちに伸ばせるだけのばされて、伸びきってしまうことを考えれば、これは素晴らしいことです。打瀬小中学校の教育の成果は年を重ねるに連れて着実に出てきていると思います。

文化祭が終わり、打瀬中学校の石原校長先生にお話を伺った際、先生が、「今までの教育は、与えられた課題を効率よく解決する能力を養うことに力を注いできた。しかし、これからは子供たちが自分で課題を見つけ、それを解決することが求められる。教育もそのように変わります。打瀬の子供たちが受けている教育は、これからの教育の先取りです。」と言っておられたのが印象に残りました。

(松村)



緊急提言 ファミリーレストランの出店に関して意見します

現在、リンコスが入居している核店舗の2階に、深夜2時まで営業するファミリーレストランが出店する計画が進められています。今回は街の現状と絡め、この問題を考えて見たいと思います。

ベイタウンの中には4つのレストラン+1つの喫茶店がありますが、居住人口から見ても十分とは言えず、ましてや子供連れで気軽に歩いていけるレストランは不足しています。この事はベイタウンが街開きした時からの課題であり、多くの住民の要望でもあります

しかし、各街区の商店は空きスペースが目立っています。その理由はいまの賃料と現在の人口水準では採算ベース上問題があるからなのでしょう。そんな中で、今まで空室になっていたリンコスの2階部分に今回出店を計画している店は、すかいらーく系列の中国料理レストランチェーン店の「バーミヤン」で、一般的に店舗を出店する際には深夜2時までの営業を基本としているところです。

実は97年度にも同じ場所に同系列の24時間営業のレストランの開店計画がありました。住民の間で賛否両論が起き、連合会及び各街区の自治会が中心になって同年9月に1・2・3・5・6・8・10・12番街で進出の是非を問うアンケートが実施されました。総配布数969枚中498戸からの回答の結果、68%にあたる339戸が主に治安や風紀の乱れを理由に夜間11時までの営業とすべきと意見し、結局この時は24時間営業ファミリーレストランの出店は実現しませんでした（住民に歓迎されないならば、出店しない、という事業者側の判断でした）。この時間問題にされたのはナンパ族や暴走族のたまり場になる可能性があるという事で、結論的に利便性よりも住宅地域としての良い環境を望む声が多かったという事です。

それではベイタウン周辺の状況は2年前と変わったのでしょうか？

いまでも週末の午後11時を過ぎた時間帯の駅前にはナンパ族であふれ返り、女性の一人歩きは危険です。駅前の

ホテルを中心とした商業地域はナンパ族の対応に苦慮し、夜間パトロールを検討しています。勤め帰りのサラリーマンが海浜公園内でおやじ狩りに遭ったり、ナンパ族を注意した人がベイタウンの入口まで追いかけてきた輩から暴行を受けたりもしています。また街の自治会連合会は最近ベイタウン周辺の治安の不安を理由に交番設置の要望を出しています。

ところが、その連合会が今回は何ら注文をつけることなく傍観の姿勢を決め、業者側から見れば街全体の了解がとれたものと勘違いしそうな状況になっています。2年前と現在とで状況の変化が見られないのにも係らず、住民の意志を問わず、ましてや前回のアンケートで意見してくれた住民の声を忘れてしまった連合会の一貫性の無い姿勢と意志決定のプロセスは問題となります。

今回の店を誘致した業者は前回のことも勿論良く知っているにも係らず、空きスペースを埋めたいが為にほとぼりが冷めた頃に同じような話を具体的な対策無く持ち込むことも理解できません。

ベイタウンニュースは出店そのものを問題視しているわけではありません。むしろ歓迎したいと思います。また遅い時間帯の飲食店を必要とする人々のニーズも大事にすべきだと考えますが、無条件なウェルカムには問題があると考えます。2年前と現在とでは人口構成も変わったとは言え、前回街全体の問題として今後の発展とからめて議論した以上、最低次の3点は連合会より進出業者に対して申し入れていただきたいと思います。

- 営業時間は11時から最小限の調整範囲。
- 核店舗の駐車場管理の徹底と周辺路上駐車問題への対応。
- 夜10時以降の未成年者およびナンパ族・暴走族の入店拒否。

ベイタウンニュースではこの問題を改めて街全体の問題として考え議論の推移に注目しています。読者の皆様のご意見をお待ちしています。 (金)

2000年は辰年だ!! <<ベイタウンの年男・年女撮影会予告>>

12月19日(日)午前10:00より(5番街エントランスに集合)

編集局では、今年正月号の「うさぎ年さん全員集合」に引き続き、来年の正月号第1面を飾る、年男・年女の集合写真の撮影会を予定しています。そこで、ベイタウン在住の辰年生まれの方を募集します。参加希望の方は、12月19日(日)午前10:00、5番街エントランス(美容室マルサン横)にお集まりください。

前回は第一回目であったにも関わらず、22人のうさぎ年さんたちが集まってくださり、澄みきった青空のもとで撮影が行なわれました。(写真)



この写真の背景地には、コミュニティ・コアの建設が予定されており、毎年年男・年女を定点撮影することによって”変わりゆくベイタウンの姿・歴史”を未来に向けて積みあげていこうと始められた企画です。みなさんも、ベイタウンの歴史の1ページに顔を出してみませんか？

前回のこぼれ話ですが、小学校では同級生でもうさぎ年と辰年に分かれてしまうため、「○○ちゃんと一緒に写りたかったー！」と残念な思いをした女の子もいたそうです。さあ、来年2000年は辰年ですよ。前回、残念な思いをした小学6年生の辰年さんは忘れず参加しましょう。また、今回15番街・セントラルパーク・グランパティオスの新しい住人も増え、ますますたくさんの方々に参加されることと期待しております。(浜田)

本当に住みよい街とは（13番街のその後）

本誌9月号に投稿いたしました標記につきまして、その後の報告をいたします。

この問題は解決しました。

パティオス13番街では、バルコニーに布団を干すこと自体は禁止されておらず、干す際の注意事項が決まっています。しかしながら、布団を干している複数の住戸に匿名でくり返し注意文が投函されるなどの一連の迷惑行為が発生しました（これは前回書いたとおりです）。この問題を話し合うために、有志が発意して居住者全員に呼びかけ、9月末に集会を開きました。当日は千葉県住宅供給公社も出席のもと、布団を干している人もいない人も、被害を受けている人もいない人も参加しました。また、都合で出席できない方からも、前もってご意見がよせられました。色々話し合った結果、現行のルールが正しく理解されておらず、これが混乱を招いている主因と思われることから、再度全員が理解できるように周知することになりました。私たちは、この結果を直ちに全戸にお知らせし、公社からも詳しい説明の文書が掲示されました。

それ以後、一連の行為は、私たちが知るところでは、見られなくなりました。現行ルールについての正しい認識をみんなで共有したからだと思えます。この解決方法自体はごく当然のことですが、個人で公社に対応を要請したり、自分で文書を掲示したりしても、1人のちからではまず物事は進みません。全戸に呼びかけてみんなで議論して打ち出したからこそ、うまくいったわけです。自治会のまだ無い（賃貸なので管理組合も無い）13番街で、居住者が協力しあって事にあったのはとても

幕張ベイタウン自治会連合会 — 活動の現状と今後の展開について

●はじめに

幕張ベイタウン自治会連合会（以後「連合会」と称します）の第3期がスタートして早くも半年が過ぎようとしています。その間、幕張ベイタウンには公園東の街、セントラルパークウエストが完工し、約1,000名の方が新たに入居されました。

今回、新しく入居された方の歓迎の意味も含めて、あらためて「連合会」をご紹介させていただくとともに、すでにお住まいの皆さんには、これまでの「連合会」の活動を、ご報告させていただきます。

●「連合会」って何なの

「連合会」は、幕張ベイタウンの街造りに関心のある有志の方々の集まりから、自然発生的に形造られたボランティア組織であり、平成9年6月1日に、当時設立されていた（或いは設立準備中であった）パティオス各番街の単位自治会を基盤として創立されました。活動の目的は、幕張ベイタウンの発展に寄与することであり、組織の機能は、下記の7つの常設委員会を中心とした、街造りのためのプロジェクト集団的な機能とともに、「千葉市第47地区自治会連絡協議会」という、千葉市から認定された行政との連絡組織としての機能も持っています。

【7つの常設委員会】①広報委員会 ②防災・防犯委員会 ③交通関連委員会 ④環境・美化委員会 ⑤文化・スポーツ委員会 ⑥コミュニティ・コア研究委員会 ⑦イベント委員会

●「連合会」って何やってるの

連合会の活動は、上記常設委員会の活動が基盤となっています。例えば、交通関連委員会は打瀬小の学童のための適切な通学路の確保を行政に要請するとともに、定期的に迷惑駐車撲滅キャンペーンを行い、迷惑駐車台数を減らすよう努力しています。環境・美化委員会は駅前の放置自転車の浄化、ボイステたばこの掃除等を行っています。また、イベント委員会は毎年5月に行われるベイタウン祭の企画、実施を行っています。これらのように、常設委員会は、住民のニーズにあったプロジェクト的な活動を継続して行っています。さらに、今年度は、特別委員会として「菜の

学習ボランティア募集続報

先月号の「きょういくベイタウン」で呼び掛けが行われた、打瀬小学校の卒業研究学習ボランティア募集に、ベイタウン住民他から続々と名乗りが上げられています。今までに応じられたテーマは、「サッカーの歴史」「送球について」「マリーンズの研究」「人体（体内）」「英語の翻訳の仕事」「野球」「まとめを読みやすくする」「サッカーのフォーメーション」「サッカーのテクニク」「ゴールキーパーのプレー」「世界の美女の条件」「長距離走」などです。これを見ると、ベイタウン住民は、どちらかと言うと肉体系なのかな？いやいやベイタウン住民の潜在能力はこんなものではないはず。地域の学校と住民との素晴らしいコラボレーションに参加するチャンスはまだあります。連絡は、打瀬小／平野先生まで（TEL:211-0321）

良い経験になりました。これで、今後必要が生じても、また自分たちで対処できそうな気がします。ちなみに、本誌9月号を読んだ何人かの方から、ぜひ会合を開こうという声が上がったのが解決の発端でした。これもベイタウンニュースに掲載されたおかげと感謝しております。

13番街に、住みやすい平穏な日々が戻ってきました。

幕張ベイタウンは、埋立地にできた新しい団地です。この真白なキャンパスに一筆ずつ、居住者は自分たちのコミュニティを描き出していかなくてはなりません。様々な考えがある中で、お互いの理解と思いやりを促すような人と人との良い関係が、本当の意味での「私たちの街」を創り出していくことでしよう。（投稿：13番街 大竹）

花クラブ」と「エコパーク研究会」を新設し、それぞれ打瀬2丁目公園の花壇の運営、ならびに打瀬第2小学校（仮称）北側に設置される緑地のあり方等に関する検討を始めております。その他、今年度は去る9月に行われた「敬老茶話会」の中で「老人クラブ（仮称）」設立の要望の声が強かったことを受けて、11月より幕張ベイタウンの老齢福祉を検討する「老人クラブ（仮称）」設立準備会を有志の方の集いとして、今後の老人福祉のあり方について検討を始めました。加えて、幕張ベイタウンの治安を検討する防犯組織のあり方についても検討を始めたところです。

一方、ベイタウンニュースの第26号（本年7月）に述べさせていただきましたが、今年度の重点活動項目として下記の3点をあげております。

- ①住民の情報の共有化：広報活動の充実
- ②新規自治会設立のための支援
- ③コミュニティ・コアの立上（ニーズの確立）

①については「連合会」の会合にベイタウン・ネットの方の参画を頂き、インターネット上に必要な情報を流して頂くようお願いするとともに、パティオス2番街の空き店舗を利用して頂き、「ベイタウン掲示板」を、住民の皆さんに公開された公報の場として活用できるよう、新規設立させました。②に関しては、ベイタウンニュース29号でもご指摘を頂いた点ではありますが、現在自治会の設立を準備されている番街に対し、関連資料の配布、オルグ活動の実施等を通じて、新規番街自治会の設立に向けて、支援を行っているところです。③に対しては、現在コミュニティ・コア研究会のメンバーを中心として、行政とともに検討会を発足させ、今月末を目途として検討結果をまとめることになっております。

このように、連合会は住民の皆様のための活動を継続しております。

●「連合会」の今後の展開は

「連合会」が発足した当時の幕張ベイタウンは、人口がまだ5,000人弱でした。しかし、現在はすでに8,000人を越え、今後も毎年1,000人以上のペースで人口の増加が予定されています。親が、生まれたばかりの赤ちゃんを、幼児期を過ぎ、これから成長期を迎え、

いずれ大人になっていくのを見守るように、この街がどのような街に成長していくかは、ここに住んでいる住民の皆さん、ひとりひとりが考えなければならぬ大きな課題です。この大きな課題に対応するために「連合会」は活動を続けていかなければなりません。

現在、「連合会」は11の単位自治会あるいは管理組合によって構成されています。幕張ベイタウン全体から見れば、その組織率は約1/3であり、広報、大規模災害時の対応等において懸念材料は存在します。しかし、各街区における自治会の結成は、あくまでもその街区にお住まいの皆さんの意思に基づいた、自然発生的に醸成されるものです。先に述べましたように、新規自治会設立のための支援活動は、現在においても実施してはおりますが、それよりもさらに、皆さんに、「幕張ベイタウンには自治会が必要」ということを、ご理解をいただく必要があります。これまでの「連合会」の活動は、プロジェクト集団的な色彩が強く、見方によっては一人よがりという側面がありましたが、今後は、従来のプロジェクト集団的な組織に加え、さらに必要な基盤を整備し、確立された、誰からも認められる自治組織へと、機能を充実させ発展させる所存です。このような活動を通じることによって、はじめて住民の皆さんのご理解を得つつ、幕張ベイタウンの街造りへ寄与していくことができるものと考えます。

●最後に一言

再三申し上げますが、「連合会」は、幕張ベイタウン全体の街造りに寄与することを目的としています。従いまして「連合会」は常に、皆さんのご意見を求めております。何かありましたら、各コンビニ、ヤンマー、リンコスにあるニュース投書箱（編集局注：ベイタウンニュース向けの投書箱ですが、自治会連合会宛の投書も確実に連合会にお届けします）にご意見をお寄せください。また、「連合会」の会合には、自治会のある無しにかかわらず、全ての街区からの皆さんの傍聴は自由です。

次回は12月12日（日）19:00～場所はパティオス1番街集会所です。ご興味のある方はご参加ください。

（幕張ベイタウン自治会連合会 会長 田村 伸彦 TEL/FAX 211-0095）

住民が創るエコパーク

「幕張ベイタウンにエコパークを創る会」では、建設中の打瀬第二小学校（仮称）の横に住民主体で「緑のエコパーク」の整備を計画。10月のピオトープ・フォーラムにつづいて、12月18日（土）14時から、パティオス10番街向かいの「かるがも館」で設立準備フォーラムを開きます。当日は企業庁と住民による私案の発表などを通じて、エコパークのイメージを探ります。第二小学校開校に向けた、住民企画の第1弾です。

詳しくは、後日マンション各棟に張り出されるポスターをご覧ください。

2番街に「こむこむ掲示板」誕生

自治会連合会では12月26日から2番街の空き店舗に「こむこむ掲示板」を設置します。だれもが原則自由に使える掲示板とのことです。



胴上げ隊頑張る！

11月21日（日）打瀬小学校のフレンドフェスタでの胴上げ風景。住民有志による自称「胴上げ隊」が打瀬小学校の屈強（？）の先生とともに子供たちの胴上げに頑張りました。



ベイタウンニュース編集局テレビに出演？

11月20日（土）、編集局員6人がNHKのBSチャンネルで放送が予定されている「おーいニッポン！」の県民1000人メッセージの収録に参加しました。ベイタウンニュースの活動とともに、ベイタウンをPRしようと意気込んで乗り込んだものの、割り当て時間はわずか5秒。出来映えには全く自信はありませんが、1月30日の放送予定です。

（写真は千葉港を背景にした収録風景です）



編

■めっきり寒くなった駅までの自転車、いつになったら頭の上の橋は完成するのかと思いつつ信号無視で突破、毎日命がけ状態で、とても人様にエラそうなことはいえませんが、「橋の建設遅くありませんか？」

「(答) 民間が金出して作るものならとっくに終わってますよ。」

ちなみにエレベーター2基付きの超豪華版「マリンデッキ」は、巨額の建設費をかけた来年4月に開通します。

企画：#3-220号金一剛（T & F211-0388 / ikkim@xa2so-net.ne.jp）

■先日、自転車で打瀬小から一番街を通っていた時、石畳の上の方位図が目に入り、一瞬ドキッとしました。何故かという方位を示すN,E,W,S (North、East、West、South)を頭文字の並びで、無意識にNewsと読んでいたのです。…ということは、ベイタウンニュースの"News"も、街の東西南北すべての人々を含んでいるのかも(?)などと考えながら帰ったわけですが、そういう意味合いを持たせてみると、たくさんの方々が誌面に登場して欲しく思われます。…まずは辰年さんのご参加お待ちしております♪

記者：公園東の街浜田貴代子（atmark@pop01.odn.ne.jp）

■少し前になりますが、メールボックスに周辺の医療機関や福祉施設を落とした手作りの地図が入っているのを見つけました。民生委員の方の手になるものです。実家の母に見せたら驚いていました。ベイタウン住民のパワーを感じました。

タウンスケッチ記者：#3-310号佐藤則子（T & F211-0090）

■今回、自治会連合会の田村会長に寄稿して頂きました。この寄稿を読んで少し気になったのが、住民の皆さんをあたかも「お客様」であるかのように扱っている点です。勘違いしてもらいたくないのですが、私たち（ベイタウン住民）は、ことベイタウンの自治（言いかえれば、ベイタウンの街創り）に関してはお客様でも傍観者でもなく、当事者そのものです。

編集：#1-210号板東司（T & F211-0289 / tbando@cpcu-netsurf.ne.jp）

■かるがも館はベイタウンの中で唯一だれでも自由に入れて使える空間です。居心地のいいところだし、ここをもっとうまく利用できないのか、と常々思っていました。リサイクルの拠点にするのもいいし、「かるがも文庫」と銘打って地下鉄の駅にあるような持ち寄りの本棚をつくってもいいし。だれか一緒にやりませんか？

記者：#7-301 茂木俊輔（T&F211-1066 / m38032@pp.ij4u.or.jp）

■編集作業の都合上、毎月メ切間際になって編集後記の最後の空欄を埋めていますが、これには編集者諸氏の編集後記を最初に通読できるという楽しみがあります。いつも一緒に新聞を作っているみんながこんなことを考えていたのかと、時に驚かされたり、なるほどと思ったり。今月も楽しみながらベイタウンニュース編集の最後の作業が終わります。今年最後のベイタウンニュースをお楽しみください。

技術：#10-612 松村守康（T&F211-6853 / m-matz@mxq.mesh.ne.jp）

集

後

記

かるがも館に「子育て情報板」登場！

10番街向かいのかるがも館に忽然と現れた「子育て情報板」。タテ約1.5m×ヨコ約1mものコルク板で、がっしりとした造りの木製の台に取り付けられています。写真のように、肝心の「情報」はまだなにもありませんが、小さな子供のいる家庭が少なくない土地柄だけに、ここを拠点に、子育てに悩むお母さんと子育てを終えた年配の女性とが結び付き、交流を深めていく——そんな展開も期待できそうです。

この「情報板」を発案・設置したのは、かるがも館を千葉県企業庁とともに運営・管理する都市基盤整備公団（旧住宅・都市整備公団）の佐々木克憲さん。昨年2月からベイタウンを担当する若手職員です。佐々木さんのねらいはどこにあるのでしょうか。

「使い方として想定していたひとつは、例えばおもちゃのリサイクル。情報板を通じて、いらなくなったおもちゃをほしがっている人に譲るような仕組みを作るのもいい」と佐々木さん。おもちゃさえあれば小さな子供連れでもかるがも館に来やすくなるのでは、との目論見もあります。公団でも1万円ほどの予算でおも

ちゃを常備したそうです。

「もうひとつ、小さな子供をもつ若いお母さんと子育てを終えた年配の女性との接点として役立たせられないか、との思いもあります」。佐々木さんは頭の中ですでに、年配の女性を「子育ての鉄



人」として顔写真付きで紹介して、それを足がかりに「鉄人」に若いお母さんの相談相手になってもらうような仕組みはできないか、との構想も描いています。

考えてみれば、かるがも館は同じ場所です計画中のコミュニティコアの「前

身」とも言うもの。7月から地域開放の始まったスペースは入って左側のわずかな部分ですが、だれもがぶらりと立ち寄れる地域活動の拠点となるところという性格は変わりません。ここでの“実績”は将来コアを使いこなしていくのにも生きていくはずですよ。

公団の佐々木さんによれば、かるがも館の地域開放を始めたのは、そこで実施していた公団住宅の募集活動に一区切り付いたことがきっかけ。「サークル活動の拠点として、賃貸居住者のコミュニティ活動の拠点として使ってほしい」との思いからだそうです。

いすの数が十数脚で少ないなど利用者にとって使いにくい点があったり、利用できるスペースがあるだけで目的なしには訪れにくかったり、いまはまだ必要な“仕掛け”が十分にそろっていないのは事実です。ただ、「いすが足りなければ、近くの工事事務所からもってくることもできます」（佐々木さん）と言うように、対応できる部分も。使い方の幅を広げていくことはできそうです。

コミュニティコアの建設に手を着けるまでの暫定施設としてできたかるがも館。公団では来年いっぱいを限りに建物の取り壊しに入るといいます。残る命はあと1年。コアのことを意識しながら、一度は訪れ、もっともっとうまい使い方を考えてみませんか。（茂木）

ベイタウンの冬のお祭り

家族揃ってもちつき大会 and ワインパーティー

今年もやってきました。クリスマスシーズンです。夜のベイタウンもいくつかの窓に、きれいなクリスマスの飾り付けが見られる季節になりました。このベイタウンが、また違った顔を見せるときです。各街区、各家庭の飾り付けはこれからが本番。こむこむのイベント委員会としては、今年は昨年までのような大々的な“ウィンターフェスティバル”は行なわない方針です。それは、クリスマスの飾り付けがベイタウンに定着し、飾り付けを行なうことと見ることがうまく各家庭、各街区でまわりはじめたのかな、と感じられたからです。コンテストがなくなっても、夜の散歩の楽しさは変わらないはずですよ。

それでは、あの“ベイタウン大忘年会”はどうなるの？ということですが、昼の部として青少年育成委員会主催の「年末もちつき大会」とタイアップして行います。お父さん、お母さん、お子さんと1年の締めくくりに、白に向かって杵を思いっきり振り下ろしてみたいかがですか。当日は400人分のもちをつく予定です。ベイタウンでもちつきは珍しい風景ではなくなりましたが、当日はプロムナードを歩行者天国にします。そこでのもちつき、また格別となることでしょう。

続いて夜の部は恒例のワインパーティーです。今年は、2番街の空店舗で行ないます。仲間を誘ってどうぞ。ベイタウンのもう一つの顔をのぞいてみませんか。街の美しさだけでなく、こんな人たちが住んでいるんだと実感できるはずですよ。

当日、サンタクロースの格好をして参加した方は、ワイン飲み放題！

そして、パーティーの後はそれぞれの家庭でクリスマスの夜をお楽しみください。



日時；12月25日（土）

もちつき大会 / 11:00～14:00

ワインパーティー / 16:30～19:30

場所；2番街空店舗およびプロムナード

詳しくは後日掲示のポスターをご覧ください

（こむこむイベント委員会 佐藤総一）

文化祭を終えて（打瀬中学校より）

打瀬中学校生徒会担当 辰野 安弘

文化祭実行委員長 皆川 哲宏

文化祭、それは生徒会が主催する学校行事の中で最大のものであり、文化面での学校教育の集大成です。本年度から打瀬中学校にお世話になっている私にとって、この大イベントを成功させることは大きな課題でした。

6月に文化祭実行委員会を結成し、7月に文化祭テーマ「夢と希望の翼」を決定しました。それを表現する出し物を、各学級や教科、部・クラブ等で準備して参りました。その間、生徒は思い通りに進まないからだちから、もめたりあきらめかけたり、様々な困難を乗り越えて最後までやり抜いてくれました。最近の中学生の中には、「適当にやろうよ。」「簡単な出し物にしよう。」といった“しらけムード”もあるようですが、あえて難しい創作劇や合唱等に挑戦し、真剣に取り組む本校の生徒のエネルギーには圧倒されました。文化祭後の生徒の感想から、「ケンカもしたけど、その分相手の性格や特技がわかってよかった。」「チームワークが無いと、おもしろい出し物は作れないと思った。」「みんなで協力できてうれしかった。」など多くのことを学んでくれたように思います。

パティオスの会のご協力をいただき、また、地域の方々も多数ご参加いただきました。ベイタウンには優れた才能をお持ちの方が数多くいらっしゃり、生徒のお手本として、憧れとして「夢」を与えてくださいました。誠にありがとうございました。今後も、学校行事にご助言、ご協力などいただけますようよろしくお願い申し上げます。

最初実行委員長を引き受けたときには、最後まで責任を持ってやれる自信も、自分が実行委員長であるという実感もあまりありませんでした。しかし、実行委員会を重ねるうちに、「自分が実行委員長なのだから、自信を持ってやらなければならない。」と思うようになりました。

文化祭を運営するために、資料の綴じ込みや話し合いをしたり、当日の挨拶を辰野先生の指導を受けながら考えました。やっている時は「なんでこんな遅くまで残らなければならないのだろう。」と思ったり、「早く帰りたい。」と思ったりしたけれど、文化祭が終わってみると、「自分の責任感を高めることができたのだから、無駄ではなかった。」と思えました。

今回は誰よりも文化祭担当の辰野先生に一番迷惑をかけたのではないかと思います。それでも陰でじっと見守ってくださった辰野先生がいて、不平ひとつ言わず協力してくれた他の実行委員の人達がいたからこそ、今回の運営は成功したのだと思います。



屋台村での研究発表



琴アンサンブル「牡丹」の演奏



住民絵画展



みなさん、本当にありがとうございました。

打瀬中学校では今年、東京大学大学院の佐伯教授の提唱する「学びの共同体」理論をベースに、多摩美術大学の須永研究室が中心となって、コンピュータなどの情報機器を活用した新しい教育の実験的授業を行っています。この模様は去る11月27日のNHK教育トウデイでもコンピュータを活用した、先進的な教育活動として紹介されたので、ご覧になった方も多いとおもいます。

一年生の生徒達が、自分たちが住む街ベイトウンを「住みやすい街とは」という角度から調べるこの授業は、生徒達が様々なテーマに従って直接自分たちで街の中を歩き、住民の皆さんから取材したデータをコンピュータに取り込んで、分析し、更に発表も最先端の情報機器を使って行います。

コンピュータを使った授業と言えば、生徒がコンピュータの使い方を「練習する」といった授業がこれまででは一般的でしたが、今回の授業はそれを遥かに越える試みです。

今回はこの授業の発表をベイトウン住民の方にもご覧いただけるよう地域開放形式で行います。プログラムは下記の通りです。

日時：12月13日（月）午前10:25～12:05 1年B組

12月17日（金）午前8:30～10:10 1年A組

場所：打瀬中学校、多目的ホール

入場無料、生徒やその保護者以外の一般住民にも公開されています。

テーマの一覧と主な調査内容

●ベイトウンの優先

- A-1 ベイトウンの高さ、超高層は周りに立つ
- A-2 建築される順番
- A-3 歩道脇にある鎖は誰のためにある？

●ベイトウンの死角

- B-1 ベイトウンの交通事故現場と状況
- B-2 ベイトウンの駐停車状況
- B-3 ベイトウンに住む高齢者が危険とを感じる場所

B-4 信号のある交差点、無い交差点

●ベイトウンの24時

- C-1 中学校に出かけるのは何時
- C-2 中庭があるのはなぜか
- C-3 ベイトウンで聞こえる音

●ベイトウンにたまる

- D-1 乳幼児が集まる場所
- D-2 小学生が集まる場所
- D-3 地元中学生が集まる場所
- D-4 近隣高校生が集まる場所
- D-5 若者が集まる場所
- D-6 高齢者が集まる場所
- D-7 ゴミが集まる？場所
- D-8 鳥や虫が集まる場所

●ベイトウンを歩く

- E-1 登下校の道
- E-2 アスファルトとブロック道
- E-3 信号機は必要か
- E-4 一番暗い道
- E-5 店が多く並ぶ通り
- E-6 ベイトウンを車椅子で歩く

以上のようなテーマでグループ毎に研究発表を行います。

この記事は打瀬中学校の協力でベイトウンニュースでまとめました。

(松)